

## MR08-06 Leg2 チリ沖およびフィヨルド中における

### マイクロプランクトン群集の分類

○鹿野寛哉・今野進(山形大学), 倉沢篤史・佐藤都・原田尚美(JAMSTEC), Jordan R. W. (山形大学)

本研究海域であるチリ沖は、沿岸湧昇の活発な海域が存在するため海洋生産が高い海域であり、世界的にも大きなフィヨルド(パタゴニア・フィヨルド, キンテュペウ・フィヨルド, カウエルモ・フィヨルド, コマウ・フィヨルド)が発達しているため、この地形を生かした漁業や養殖が盛んで、日本の魚資源を支える重要な海域となっている。しかし最近になって、南米のアンデス山脈の氷河融氷が顕著になり、大陸起源物質の海洋への多量供給が海洋生態系に影響を及ぼす可能性がでてきている。

本研究では、チリ沖およびフィヨルド中の植物プランクトン群集・分布および生息密度がどのように変化しているのかを明らかにし、大陸および氷河の影響する海域のことを本研究の目的とする。

試料は、2009年3月15～29日に行われた海洋地球観測船・みらい MR08-06 Leg2 航海(チリ沖の沿岸地域, フィヨルド内)において表層海水(2L)を39地点で採取した。航海中に表層海水をメンブレンフィルター(直径47mm, 孔径0.45 $\mu$ m)でろ過し、フィルターケースに密封後、冷凍保存した。大学にて、フィルターを3 $\times$ 3mm(生息密度カウント用)と6 $\times$ 6mm(写真カタログ作成用)に切り、電子顕微鏡にて検鏡・カウントを行った。

今回のポスター発表では、検鏡での結果の植物プランクトン群集変化を報告する。